

伝えようとするということの大切さ

H.T.

総合人間学部 1 回生

私は、日本語の通じない環境に身を置くことで苦手とするリスニング及びスピーキングの力を高めたいと思い今回このプログラムに参加しました。特にスピーキングに関しては英語で話すということに怖さを感じていたため、プログラムに参加することでその意識をなくしたいと思っていました。

目標であったスピーキング・リスニング力の向上という点において、ホームステイを経験できたことはそれらの力を伸ばすのに大変役に立ちました。ホストファミリーによって違いはあると思いますが、洗濯や料理のこと、その日行った場所や授業でやったこと、日本文化など様々なことを尋ねてくれ、私がかたく英語で伝えられなくてもずっと耳を傾けてくれたり手助けしてくれたりした中で、次第に英語でコミュニケーションをとることに慣れ、自分から英語で話しかけるようになりました。また、英語が間違っても笑ったりせず真剣に聞いてくれ、最終的には伝えることができた経験を積み重ねることで、何度も試行錯誤して伝えれば母語も文化も違っても理解し合うことができるということを改めて実感しました。

また、語学学校に通い様々な地域出身のクラスメイトたちと交流する中で日本との違いを知ることができました。クラス全体に問いかけられた質問に積極的に答えたり、間違っていたとしても臆することなく発言したり、分からなければ何度でも質問するなど、日本人が黙ってしまいがちなところでも発言していました。そのことは英語を勉強として学ぶだけでなく、日常で使う言語として話せるようになるということにも役立っているように思えたので、見習うべき点だと感じました。

今回の留学で得た試行錯誤しながらコミュニケーションをすれば理解し合うことができるという経験は将来確実に生きると思います。私が今専攻したいと思っている分野においては、自分とは全く違った感覚を持っている人と接する機会が多く苦勞することも多いと思います。このプログラムで接した違う言語・文化の人と接するという点とは違う点もあるとは思いますが、違う感覚を持って生きている人とわかり合うという点では非常に近いと思うので、今回の経験を生かして生きたいです。また、その仕事をする中で海外に行くことも多くあると思います。その際は今回少し向上したスピーキング能力を生かせるようにこれからもさらに学習を重ねて英語のスキルを高めていこうと思います。

楽しい生活と、変化のきっかけ

S.S.

総合人間学部2回生

私がこのプログラムに参加した目的は、語学力の向上と、そしてそれ以上に、海外を体感し自分の価値観を問い直すことでした。私は日本を出たことがまだありません。しかしそのままでは無自覚のうちに日本の常識にとらわれて、広い視野をもった人間になることはできないのではないか、今海外に行ってみたい、それもできれば旅行ではなく実際に住んでみたい、と思ったことが参加を決めたきっかけです。1カ月間ホームステイするという条件は私にぴったりだと思えました。

生まれて初めてのニュージーランドでの生活が始まると、見慣れない街並みや風習にワクワクしました。最初は英語しか通じない状況は緊張するものでしたが、出会った人はみな優しく、こちらの言うことに耳を傾けて理解しようとしてくれました。おかげで、きちんと意思疎通をすることができ、苦しいとは感じませんでした。幸運にもホームステイ先の家での居心地は良く、心配は無用でした。夕飯の時にホストファミリーはみな黙って食べており、もっとしゃべりたいのに、とどこかしい思いもしました。しかし、マザーが話しかけてくれるのに対して自分なりに楽しそうに答え、会話をつなげようと努力していると、そのうち食事中や食事後にたくさん会話ができるようになりました。ホームステイによって、より現地の人に近い生活を体験でき、しかも現地の家族と仲良くなれたことは、他ではできない経験で、大きな財産となったと思います。他に、平日の授業は午前で終わったので、いろいろなところを観光することができました。市内の名所という名所はほぼまわりつくしました。出発前には思いがけなかったことですが、そこでとても貴重な日本人の友人を得ました。

最も自分にとって勉強になったのは、学校の授業です。まず、様々な国から来たクラスメイトや先生と交流できたことがためになる経験でした。優しく個性が光るクラスメイトと話すのは本当に楽しくて、そんな楽しさを実現してくれる英語が好きになりました。さらに、周りと比べた自分のスピーキング力の弱さを感じました。最初は圧倒されましたが、やがて彼らの語彙は多くはないもののそれを思い通りに使って主張していることに気づき、会話をする際の重要なヒントをたくさん学ぶことができました。改めて、英語力向上が自分の大きな目標になりました。

充実した研修生活でしたが、もやもやしていることも実はあります。楽しかっただけで、自分の成長や価値観の打破には至らなかったのではないかと。何を学んできて、何が変わったのか、と自問すると、自信をもって答えられません。きっと、この研修はこれから価値観を拓けるきっかけになるのではないかと思います。分からないなりにとりあえず、海外生活、国際交流の楽しさを知り、そのために英語を学ぶモチベーションを得ることができました。私は将来にわたって、もっと英語を勉強し、日本でできる交流に勇気をもって参加してゆきたいと思っています。その中で様々な文化と人を知り、いつか自分の世界観が大きく変わっている、そのために、留学が終わった今からの生活こそ大切なんだと強く感じます。



日本を客観視することの重要性

K.A.

文学部3回生

私がこのプログラムに参加した目的は二つある。一つ目は、英語力、特にスピーキング力とリスニング力の向上である。これまで海外に旅行した際に、自分が受験勉強で学んだ文法や単語という「知識」だけでは日常会話を円滑に行うことすらままならないことを痛感してきた。そこで、留学に行って実際にネイティブスピーカーと会話することで「知識」だけにとどまらない生きた英語を身に着けたいと考えた。二つ目は、自分の知らない文化を体験し視野を広げることである。何度か海外に旅行したことはあったが、現地の人々と暮らすことで初めて分かる文化や価値観を体験したいと考え、参加を決めた。

オークランド大学での授業は日本とは全く異なるものであった。生徒は教師や他の生徒と積極的に議論し、自分の意見を述べるのが求められ、ただ教師の話の聞いているだけの時間は非常に少ない。この授業を通して、英語力だけではなく、身振りや表情を使って自分の意見を積極的に伝える力を養うことができた。外国語で会話する上で最も重要なのは単語でも文法でもなく、なんとかして相手に伝えようとする姿勢だということ学んだ。

また、ホームステイをはじめとする日々の生活では、現地の食事や文化を直接体験することができた。日本のように「察する」文化はないので、伝えたいことは直接言わなければ分かってもらえない。そうした価値観の違いから時にコミュニケーションが困難に感じることもあったが、相手のことを知り、自分のことを伝えようと苦労した経験はかけがえのない財産となった。

それに加えて、日本人は親切だという話をよく聞くが、決してそんなことはないように感じた。たしかに日本では落とし物をすれば高確率でもとに戻り、道を尋ねれば親身になって答えてくれる。だが、自分に関係のない人やことに対しては非常に冷たくもあると思う。道に迷っているように見える人がいても、日本人は自分から声をかけて助けることはあまりしないだろう。ニュージーランドの人々や他国から来た留学生は、困っている人がいれば積極的に手を差し伸べ、知らない人にも仲のいい人にも平等に接するように感じた。こうした姿勢は日本人が今後見習っていくべきものであると思う。

今回のプログラムでは、英語力の向上と文化の体験という目的を達成できただけでなく、日本人を客観的に見る視点も身についたように思う。日本に暮らしていると自分たちの価値観が当たり前のように感じてしまうが、時にそれを俯瞰し、海外の価値観も積極的に吸収していけるように心がけて生きていきたい。

オークランドで学んだこと

M.M.

医学部2回生

私がこのプログラムに参加した主な理由は、英語でのコミュニケーション能力を上げるため、英語の勉強を頑張る日本及び世界の学生と会うため、の2点である。文法やリーディングは受験勉強の中でどうにかなる部分が多かったが、英語を話す・聞く力は英語を喋る機会の少ない現在のままでは成長しないと感じて海外で生活してみようと思った。また、私達を通ったオークランド大学 English Language Academy には各国から多くの学生が英語を学びにきており、様々な人と出会えるのではないかと思い参加した。

実際に1ヶ月過ごしてみて、とても沢山の収穫があった。英語を勉強する多くの仲間と出会い会話したことで私の英語力が上がったことを実感できた。初めの頃はほとんど聞き取れなかったホストマザーの言葉も、別れの時にはスムーズに会話ができるようになった。ホストファミリーと食卓を囲み、共に映画を見て、たくさん会話した時間は私の宝物である。もっともっと滞在したかったと感じている。ニュージーランド国民(Kiwi)はなんでもはっきり言う人が多く、自分の意見を持つことの大切さも感じた。普段はどっちでもいい、と答えることがほとんどの私も色々な主張ができるようになった。

またニュージーランドは多民族国家であり、色々な人種の人が互いに理解しあっていること、マオリの文化を学べたことはとても素晴らしい経験となった。日本、韓国、中国、タイ、サウジアラビア…色々な国から英語を学ぶという同じ志を持った学生と出会えたことで将来についてより具体的に考えるきっかけとなった。これからも互いに刺激を与えられるような存在でありたいと思う。

今回の留学は短期ではあったものの、普段とは全く異なる環境で新しいことをたくさん学び、吸収し、感じ取ることができたとても充実した日々だったと思う。

私達を快く受け入れてくれた Kiwi 達のように日本に、私の住む街京都に来る観光客と英語で気持ちの良いコミュニケーションが取れると良いと思う。また、グローバル化の進む中で働くには英語が必須となってきている。自分の思い、考えをきちんと英語で伝えられる人になりたい。

異文化体験から得たもの

Y.M.

医学部3回生

私がこのプログラムへの参加を希望した理由は以下の三点である。第一に、英語力を向上させたいという理由である。英語圏での生活や日々の授業を通して、自分が苦手としているリスニングとスピーキングの能力を向上させたいと考えた。第二に、日本以外の国に行くことで、国際理解を深めたいという理由である。ホームステイや授業など、異なるバックグラウンドをもつ人々と交流することで、自分の視野を広げたいと考えた。第三に、このプログラムの実施時期と期間に魅力を感じた。夏季休暇を有効に使うことができ、一か月という期間は短すぎず長すぎず、短期留学するにはちょうどよい期間であった。

実際にこのプログラムに参加して、目的としていた語学力の向上、国際理解を深めるということについては大いに学ぶことができた。日々の授業では、ただ聞いているだけではなく、自分の意見を発現すること、自分から質問することなど積極的な姿勢が大切であると感じたとともに、自分の伝えたいことがあっても、それを瞬時に英語で話すというのはなかなか難しいということも実感した。英語でのディスカッションやプレゼンテーションを行う機会があった。また、様々な国から来ている他の生徒と話すことで、他の国について知ることができるだけでなく、日本のことを客観的に見る視点を身に付けることができた。日本の長所や短所、文化、社会問題など幅広く精通していなければならないと感じた。ホームステイでは始め、食生活や生活様式などの違いに戸惑うこともあったが、異文化体験をするにはいい機会であったと感じる。日本人は遠慮しがちで、もっと自分の意思をはっきり伝えなければならないということを実感した。学校の授業は平日の4時間だけであったため、学校の近くを散策したり、フェリーで周りの島に遊びに行ったりなど、非常に有意義な時間を過ごすことができた。ニュージーランドは想像以上に都市と自然の距離が近く、便利な生活を送りながらも雄大な自然を感じることもできるいい場所だと感じた。

このプログラムでは終始、日本との「違い」に驚くことが多かった。驚くということにとどまらず、自分の価値観に縛られず、その違いから学ぶという姿勢を今後も持ち続けたい。貴重な経験ができた一か月、そして関わってくれた周りの人に感謝したいと思う。

留学前後における自分自身の変化

石坂 梨緒 (Rio ISHIZAKA)

工学部3回生

今まで私は中学から英語を学んできたが、大学生になってから、英語の文法と読み書きがいくらできたとしても、実際には世界には全く通用しないことを痛感する機会が増えた。英語を学ぶだけでなく実際に手段として英語を使いたいと思ったため、短期留学したいと思った。本プログラムを選んだ理由はいくつかある。本プログラムはホームステイであったので、ホストファミリーと日常生活で英語を話し、現地の人の生活を直に体験したいと思ったからである。また、他のプログラムよりも4週間と期間が長いこと、ニュージーランドは多民族国家であり、様々な国の文化に触れられることも挙げられる。

今回のプログラムを通じて身に付いたことは、英語を話すことに自信がついたこと、様々な国の人と話せたこと、ニュージーランドと私のホストファミリーの出身であるインドネシア文化に触れられたことである。私は出国前から言葉や食事の面でホームシックにならないか不安で憂鬱になっていたが、ホームシックには全くならず、現地での生活を十分に楽しむことができた。英語を話す際は、文法や発音やイントネーションの間違いを恐れず、とにかく自分の伝えたいことを第一に話すように心掛けた。自分の英語が通じることが面白くて自信につながった。そして、家でホストファミリーと話すとき、語学学校でクラスの日本以外の国出身の人と話すとき、街中で現地の人や店員と話すとき、発音やイントネーションの違いで聞き取れなかったり、逆に自分の英語が通じなかったりすることがあった。聞き取れなかったときは分かった振りをするのではなく必ず聞き返し、何度もゆっくり言ってもらったり、スペルを聞いたりした。ホームステイでは、親切な家族に恵まれ、マザーは毎晩一緒に話してくれ、その日あったことや、お互いの文化や観光名所のことについて話し合い、長い時は2時間を超えるときもあった。来年の春にマザーが日本に観光で来るので、今度は日本で会えることを楽しみにしている。課外では、授業がない午前中や土日をも有効に過ごすことができた。午前中のときは早起きして近くのビーチや街中を見に行き、土日は離島や郊外まで自然を見に行った。Wi-Fiを持たずに行ったが、バスの乗り換えが分からないとき、オススメの観光スポットを知りたいときなどに、現地の人に聞くことも勉強になった。

将来的には英語が話せるようになることを目標にするのではなく、英語を使って自分の意見を述べたり、議論したりすることができることを目標にしている。しかし、現状はまだ言いたいことを瞬時に英語で言えず、ネイティブ人の英語のスピードにはついていけない状態であり、英語を話す際は、まず日本語で考えてからそれを英訳してしまっている。まずは、英語力向上を図るために、大学の留学生の友達と英語で話して毎日英語を話すようにし、また TOEFL iBT の試験勉強をするから始めていきたいと思う。



期待以上の異文化交流

J.O.
工学部1回生

私がこのプログラムに参加しようと思った理由は二つある。一つ目は自分の英語力の向上だ。ネットで調べ物をする際アルファベットのみからなる語で検索すると英語で記述されたページも多く表示される。前期の授業でこのことに気づき、英語で自由に情報を収集できることは大きなメリットになると感じ、同時に英語で情報を発信できればより多くの人に自分の意見を伝えることができることにも気づいた。二つ目は自分と異なる文化に触れることだ。英語で情報を収集したり発信したりすることは、英語を母語とする人々や、英語を外国語として学んだ世界中の人と交流することだ。私はこのプログラムに参加するまで海外に出たことがなく、日本の文化、法律、考え方を当たり前とっていた。しかし、異なる文化で育った人たちと英語を通して交流するには英語の能力だけでなく彼らの文化に対する理解が必要であり、それが難しくとも前提としている認識が自分のものと異なる可能性があることを意識することは交流の助けになると私は考えている。その差を肌で感じ、将来するだろうそうした交流の助けとするために、このプログラムに参加しようと考えた。

4週間のプログラムを経て、一つ目の目的はある程度達成できた。授業中はもちろん、ホストファミリーとの意思疎通や、街で食事をするのにも英語を使わなければならないので、日本での学習では手の届きにくいリスニング、スピーキングの練習を多くできた。一方で、せっかく海外で英語漬けになれる機会を上手く活かせなかった点もあった。話題が上手く見つけられなかったり、上手く話せるか不安に思ったりしてホストファミリーと必要最小限以上の会話があまりできなかったほか、週末や休憩時間だけでなく授業中にも日本人の学生たちとは日本語で会話をしてしまうことも多かった。

二つ目の目的は、自分が期待していたよりはるかに高いレベルで達成できた。ニュージーランドはヨーロッパ系の移民のほか、原住民のマオリやアジア系の移民も多く、道を歩けば様々な容姿の人を目にした。現地の人だけでなく、教室にも色々な国からの留学生が集まっていた。日本以外からの留学生は大学生ばかりではなく、母国では社会人として仕事を持っていた生徒もいた。彼らと会話するなかで国による文化の違い、教育制度の違いだけでなく、職業による物の見方の違いも知ることができた。

このプログラムで得られたものは多い。英語圏での滞在で多くの練習を積み、また、ELAのカリキュラムも生徒同士の会話を促すものであったことから、英語を身につけるにはなるべく多く英語に触れることが重要であることを再認識し、それと同時に様々な文化や価値観にも触れることができた。この4週間の間に重要と感じたものを意識しながら英語の勉強を続けたい。また、多くのニュージーランド人やELAでともに学んだ各国の人たちとの交流で知った彼らの文化に関する知識、自分の価値観と差があるという認識を活かして、将来は円滑で誤解のない国際交流をしていきたい。

一步前進

H.Y.
工学部1回生

私がこの短期留学に参加しようと思った理由は2つあります。1つは、英語を7年間学習してきた今自分の英語はどれほど通用するのか、これから何を意識して英語を学んでいけばよいのかを確認し、すこしでも英語で会話をする能力をつけるためです。私の夢はアメリカで航空宇宙産業に携わることで、そのために英語を身につけることは必須です。できるだけ早くアメリカで航空宇宙工学を学びたいと考えているので、なるべく早く自分の英語のレベルを実感したいと思いました。2つめは、ずっと日本にいた自分の視野を違う文化圏に身を置くことで広げるためです。グローバル化の進むこの世界では社会に出ればいずれ異文化に衝突します。そのときに少しでも柔軟に対応できるように異文化を体験したいと思いました。

まず1つ目の目的について、はじめにホームステイ先についたときにすぐに私の英語はまだまだだと実感しました。はじめにハウスルールを説明されたのですが、ほんの少ししか理解できず、返答も Yes・No と OK しかできませんでした。本当にたくさん練習が必要だと思い、クラスで自分から積極的に発言することで少しずつですが上達できたと感じています。この1ヶ月でこれから英語を勉強するにつけて意識しなければならないと感じたのは、文法と語彙力です。私は、日本人は学校で学術英語中心に学ぶのでスピーキング能力はないがリーディングや文法は得意だと思っていました。たしかに ELA でも日本人はほかの国からの留学生に比べて筆記では好成績でした。それでもかれらはとても話すのが上手でした。私はそれは、文法が母国語に似ているからだと思います。単語さえ置き換えればほとんど彼らの母国語と同じ順序で話せますが、私たちは単語の順番を置き換えるのに少し時間がかかります。それに加えて使用する単語も考えなくてはいけないので文章を構成するには時間がかかります。だから私はこれから英文法を熟知し、語彙を増やすことが重要だと考えました。2つ目について、オークランドはたくさんの国から人が集まっていて、異文化に衝突したというような実感は得られませんでした。しかし、ニュージーランドは日本よりずっと生き生きとしていて、住みやすい国だと実感しました。私が毎日日本で乗っていた電車ではみんなが疲れ切った顔をして、夜遅くでもたくさんの人が乗っていました。ニュージーランドではみんなが生き生きして見え、18時を過ぎると人通りが少なくなりバスの乗客もほとんどいませんでした。それを見て将来はこの人たちのように生き生きと生活したいと思いました。

私はこの1ヶ月異国で生活し、ELAの授業を受けたことで積極性が増したと感じています。将来もっと積極的になれるようこの経験を活かしたいと思います。

忘れられない一ヶ月

T.H.
工学部2回生

私は、他国で生活を送り、現地の文化を肌で感じてみたいという願望を大学入学当初から抱いていた。英語で専門分野の講義を受けるにはまだ英語の能力が不十分に思われたため、一ヶ月の間、現地で実践的な英語を学びながら海外での暮らしを体験できるこのプログラムに参加することにした。

授業では、私の英語能力の拙さから先生の指示を聞くことや他のクラスメイトと英語で対話することに苦しんだ。しかし、先生は大変優しく、また、クラスメイトにも助けてもらい、無事に修了することができた。授業は文法やライティングも扱うが、やはり対話を中心としており、私の苦手とするリスニングやスピーキングを鍛える上では適していたと思う。また、クラスメイトは出身国もバックグラウンドもそれぞれ違って、クラスでの彼らとの会話の中でニュージーランド以外の国の風土や生活、価値観を知ることがもあった。クラスは多様な文化を知る上でも良い機会であった。

ホームステイに関しても、私は温かいホストファミリーに恵まれた。夕食後はホットドリンクとお菓子を用意して、家族で過ごす時間が設けられており、その間はホストマザーとの会話を楽しんだし、相談にのってもらったこともあった。確かにシャワーの時間の短さや洗濯の頻度の少なさなど文化的な違いもあったとはいえ、それほど気にならなかった。

この1ヶ月間の短期留学は、海外に一度も行ったことのなかった自分には一種の挑戦だった。申し込む前は不安や迷いもあったが、参加してみて、ここに書き尽くせないほどたくさんの貴重な経験ができたと感じている。そして、この留学の中で学び得た教訓を無為にすることなく、今まで以上に意欲的かつ継続的に英語学習を進めていこうと思う。実際、留学を終えて今の自分の実力を理解することで、一層英語の習得に真剣になれた。私は航空・宇宙分野の仕事に従事したいと考えているので、英語能力はきっと将来の仕事に役立つだろう。仕事以外でも、様々な国籍の違った文化や価値観をもった人と英語を使って交流することができたらよいと思う。

私のオークランドでの有意義で楽しい生活は、ホストファミリーやELAの先生、クラスメイトや友人の支えなしではあり得なかった。また、出発前にはCIEEや国際教育交流課の職員の方々にもお世話になった。私を支えてくれたすべての方々に心から感謝したいと思う。

